

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100228		
法人名	有限会社なんくる		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームたけとんぼ		
所在地	沖縄県那覇市国場911-2		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100228-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100228-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年 9月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の入居前の生活スタイルを可能な限り施設でもできるように努め個人の能力に応じて食器洗い・洗濯干し洗濯たみ・花の水やり等を職員と行い能力維持に努め近隣の他種企業と協力し地域の祭りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の方針として、頻繁に外出する利用者の対応に困っている家族を助けたいとの思いがあり入居の受け入れをしており、利用者一人ひとりの個性を把握し外出に付き添ったり、付き添いが困難な場合には利用者の興味がある活動へ関心を向けるなど、個々に沿ったに支援に努めている。現在は新型コロナウイルス感染予防から頻繁な外出や外部からの訪問の受け入れは控えているが、平常は利用者と一緒に近所の散歩をしながらゴミ拾いをしたり、ウクレレ演奏や踊りなど地域のボランティアの受け入れや地域の他種企業での有志会で年に1回地域の祭りを主催するなど、日頃から地域との関わりを持っている。  
事業所の理念である「自分が年を取った時に生活したいと思える場所」を職員は常に意識し、利用者の生活習慣や趣味が継続できるように努めている。食事は3食とも事業所で調理し、献立の相談や買い出し、食材の下ごしらえなどにも利用者が参加しており、事業所敷地内の一角で作っている野菜を使ったり、誕生日や季節に合わせた食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と理念を共有し実践できるように努めている	一年前に管理者と職員で事業所の理念を作成し、事業所内に掲示、月1回の職員ミーティングで理念に沿った支援が実践できているか確認している。「利用者も職員も同じ人間として尊敬する」「自分が年を取った時に生活したい場所として思える」事を意識し、生活習慣や趣味活動を入居後も継続できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年近隣事業者と協力し地域夏祭りを行っている	平常時は地域ボランティアを受け入れ、月1回のウクレレ演奏や月2回の歌・踊り会、利用者と一緒に近隣のグループホームへ野菜を購入しに出かける等の交流を持っている。また、地域の他職企業での有志会で毎年夏祭りを主催したり、日頃からSNS等を活用して情報交換し協力体制を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他事業所と合同で認知症の勉強会を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を玄関に置いてどなたでも観覧できるように工夫している	2ヶ月に1回開催、今年度は蔓延している感染症の影響から、文書での情報提供・報告や、外部からの委員の参加を自粛する等工夫し、議事録は事業所玄関にファイリングし閲覧できる。利用者家族へは事前に電話で依頼し毎回参加できている。近隣のグループホームが協力しお互いの運営推進会議に出席している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加をしてもらったり電話等で意見等を聞いたりし協力関係を築けるように努めている	行政から研修等の案内はメールで届く。運営推進会議も委員として市の担当者や地域包括支援センターの職員が毎回出席しており日頃から情報交換や連携が取りやすい関係にある。地域包括支援センターが主催する認知症カフェへ利用者と一緒に参加したり、事業所の人員配置について行政へ相談し適切な返答があった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を掲示したりマニュアルの読み合わせをしている	3ヶ月に1回委員会が開催、議事録、マニュアルが確認できた。職員に対して年2回の研修を実施し身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関や各居室の掃き出し窓は自由に入出りでき、利用者は好きな時に外に出て玄関前のベンチで休む等している。職員は言葉や行動で制止する事なく見守りや寄り添う支援をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に身体観察を行い防止に努めている	運営規定に「虐待防止のための措置」が規定され、身体拘束廃止の研修と併せて虐待防止についてのマニュアルを読み合っている。毎月の職員ミーティングで虐待防止について確認し、ミーティング後は職員のストレス軽減を図り親睦会を開催している。管理者は日頃から職員に声をかけ疲労やストレスの把握に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問・質問がないか確認しながら行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係者とコミュニケーションを図りながら要望や意見を聞くように努めている	日頃のケアの中から利用者の意見を引き出すように声かけや会話を多くしている。晩酌が楽しみだった利用者の家族から入居後も晩酌させてほしいとの要望に対して、主治医と相談しながら継続させていた。また、北部出身の利用者へは、職員2人と利用者2人が一緒に北部へ泊二日の旅行をするなど要望に応じている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表や職員ミーティングを行い意見交換や提案をしている	職員は管理者や法人代表者に意見や提案しやすい環境で、管理者の方針として職員からの提案や意見は基本的に受け入れ実践させている。最近では入浴支援の業務について職員から提案があり、基本的な入浴日の曜日を固定した事で、入浴日以外の曜日のレク活動が充実するなどサービスの質の向上につながっている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職場環境に努めている	就業規則が整備され、全職員が年1回の健康診断を受けているが、夜勤を行なっている職員の年2回の健康診断の実施が確認できなかった。希望の休みが取れ、職員の状態に応じて長期休暇を取得させている。職員が自主的に動き利用者と一緒に野菜を作る等、職員が向上心を持って働ける職場環境作りに努めている。	定期的に夜勤を行なっている職員の年2回の健康診断の実施と、対象の職員に対して年5回の年次有給休暇の取得についての整備が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報収集を行い職員のスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会や困りごとの話し合いを行いサービス向上に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションを図り信頼関係が築けるように努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望を傾聴し関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人と話し合いを行えるサービスを提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に外食したりできるサービスを提供できるように努めて信頼関係を築けるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や変化をその都度連絡し信頼関係を築けるように努めている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が続くように努めているができていない	年末年始や旧盆などで一時帰宅や家族が経営している美容室へ出掛け、交流を継続している。また誕生日に合わせて、北部出身の利用者のふるさと訪問にて1泊2日の宿泊を実施している。面会自粛中もボランティアとは定期的に電話でやり取りしたりと、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の場所を変えたりして楽しめるようにつとめている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人がいる施設等に面会に行き関係継続に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報を集めできるだけのサービスを提供できるように努めている	入居前に利用者の好きなことやどのように生活したいのか一つ一つ丁寧に思いを汲み取り、職員間で情報共有し、楽しんでできる事を取り入れ実施している。毎日、時間を問わず散歩の付き添いや施設の庭で栽培している野菜や花木の水かけなど個々の要望に沿って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係者から情報収集を行いできるだけのサービスを提供できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で申し送りやライン等で利用者の情報を共有を行い把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い主治医の意見を踏まえ三者で意見交換し現状に即した介護計画を作成するように努めている	居室担当者が月1回モニタリングを実施し、6か月の目標期間の見直し時期や状態に合わせて介護支援専門員と情報交換、計画の見直しを行っている。利用者がどのように暮らしたいのかを大切に、趣味や特技、関心が高いものなどの把握に努め、日用大工や園芸が得意な職員のアイデアや意見を交えて介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送り等で職員間で情報共有をしながら介護計画の見直しに活かせるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にできるだけ応えるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店に買い物等に出かけるように努めているができてない		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に利用者の状況報告書を作成しかかりつけ医に報告をしている	入居前よりかかりつけの病院へ基本的に家族対応で受診している。受診時は、状態が落ち着いている場合は口頭で行い、状態に変化がある場合は書面で情報提供している。また緊急時など状況に合わせ管理者が病院受診の調整、同行することもある。年1回の健康診査や特定健診などの受診を家族へ促し、健康管理に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護記録で情報共有し個々の支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と情報交換を行い早期の退院ができるように努めている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の悪化や介護の変化時には関係者で話し合いを行い今後の支援に努めている	重度化や看取りについては、契約時に、医療的行為が必要な場合の対応が困難になることなど事業所の方針を家族へ説明し、同意を得ている。利用者が病状や介護の重度化など状態に変動があった場合は、家族や適切な施設への相談、調整を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加して実践力を身に付けるように努めている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼夜想定訓練を行っているが近隣の協力得られていない	年2回、昼夜を想定した火災訓練を実施している。訓練実施時間帯、近隣住民が不在中の為、参加の協力が得られていない状況にあり、運営推進会議や有志会など地域との交流機会の場でも周知活動に力を入れていくことを検討中。災害に備えた非常食は、3日分程度を確保し、普段の食事でも活用しながら備蓄している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重して対応している	入職時や月1回の職員ミーティングで、就業規則の守秘義務の確認を行うなど情報の管理を徹底している。また利用者が居室に不在時やトイレ使用時はドアを閉め、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる範囲で対応するように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで一日を過ごせるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回散髪支援を行っている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カップラーメンやピザ等利用者の希望や季節の食事ができるように努めている	献立は利用者からのリクエストや季節感が味わえる物を取り入れ、おせちや年越しそばなど行事食も作成している。3食を事業所で調理し、事業所で栽培している旬な野菜を使って、皮むきや炒めるなど簡単な作業を利用者も一緒に行っている。毎食時、職員も同席し、一緒に同じ食事を楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゼリー等で提供したり好きな物の情報収集を行い状況に合わせて支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じて支援している		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを職員で共有しトイレで排泄できるように努めている	日中は基本的に全利用者がトイレで排泄できている。入居当初は、夜間帯に毎回失敗があった利用者の排泄パターンを把握し、声かけや尿取りパッドの容量変更等の工夫で、失敗が無くなった事例がある。入居前の排泄状態を維持、向上できるように、個々の排泄パターンを大切に支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用や看護師・豆乳等で工夫して予防に努めている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状況に応じて支援できるように努めている	入浴は週3回、また要望に合わせて実施している。入浴拒否の強い利用者に対して、声掛けや時間の調整、職員を変えたり工夫することで、スムーズに入浴が出来ている事例があり、個々に合わせた支援を大切にしている。脱衣場は適度な温度を保つ為、冬場はストーブを設置している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や体調に応じて支援に努めている		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があれば職員間で情報共有を行っている	処方された薬は、介護主任が1週間分ずつ個人の服薬ケースに仕分けしている。服薬変更時は、申し送りにて情報共有している。この1年内は飲み忘れや誤薬などの事故はないが、安全な服薬支援の為にマニュアルが作成されていない。	安全、正確な服薬管理が出来るように、早急な「服薬マニュアル」の作成が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や楽しいことの情報収集を行い支援できるように努めている		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況・状態に応じてできる範囲で支援できるように努めている	利用者の希望に沿って、毎日、時間を問わず散歩へ付き添い支援している。月2回の食材の買い出しや誕生者への夕食、宿泊やドライブ、昨年の敬老会はカラオケボックスへ食事も兼ねて出掛けるなど積極的な外出を実施している。また定期受診時に家族と夕食や買い物を楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて支援できるように努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している、家族からも毎日電話が来ておしゃべりをしている		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の塗り絵や利用者の趣味の動画等を視聴できるように努めている	季節毎に利用者と職員が一緒に作った作品が飾られ、行事があった際にはその時に撮った写真を貼り出している。玄関先には外気浴等が出来るベンチが設置され、リビングではテレビ前のソファで利用者が趣味の動画等を観ながら寛いでいる。共有空間内2ヶ所に次亜塩素酸水の加湿器を設置し感染予防対策を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し個々で楽しめるように支援している		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してた物や写真等を飾り居心地よく過ごせるように支援している	全室フローリングで各居室に電動ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。使い慣れた寝具や思い出の物、家族写真などの持ち込みを家族に協力依頼し、仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。個々の状態に合わせて家具の配置を変更するなど動線作りにも配慮し、個性を大切に空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置して安全に移動できるように支援している		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	服薬マニュアルが作成されていない	どの職員が見てもわかりやすい服薬マニュアルを作成する	職員と話し合いを行い分かりやすいマニュアルを作成する	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。